駐在員による

海外リポート特集

Overseas Report

海外リポート
大連……P30
海外トピックス
……P34
海外進出最前線
香港……P26
海外リポート
バンコク……P28
海外進出最前線
ニューヨーク…P27

海外進出最前線

海外進出されている福岡銀行本店営業部のお取引先企業グループのご紹介

香港編

丸東産業株式会社

～香港包装器材中心有限公司～

1 はじめに

丸東産業株式会社様は、福岡県小郡市に本拠地を構え、パッケージ関連製品の製造、販売を行われている企業です。セロファン等の取り扱いに端を発し、現在は製品の上流（デザインや商品企画等）から下流（製袋）までの一貫生産体制を敷いて、食品・医薬品・化粧品・工業用品等、あらゆる分野でデザイン性と機能性を両立させたパッケージを手掛けられています。最近では「直進くん（手で簡単にまっすぐ開封出来る袋）」等の付加価値の高い製品を開発し、全国の営業拠点を通じて販売されています。今回は、丸東産業株式会社様の子会社で香港に拠点を置く「香港包装器材中心有限公司（以下、同社）」をご紹介します。

2 クロスボーダーでのM&A

丸東産業株式会社様の海外ビジネスへの取り組みの歴史は古く、1957年には貿易部（現・国際部）を設置し、いち早く輸出に注力されていました。当初、香港資本の商社を代理店とし、包装関連製品や食品トレイ等を輸出されていた経緯から、香港周辺市場に強い魅力を感じるようになったそうです。1988年には、その香港商社の株式を取得、100%子会社としたのが現在の同社で、今ではグループ全体の売上の約1割を占めています。

3 香港での事業活動

香港では夫婦共働き世帯が多く、レストランでも持ち帰りの文化が根付いていることから、同社ではそのニーズに応える為、多くの有名レストランやスーパーマーケット等に食品トレイを販売されています。また、月餅（中国の菓子の一種）メーカーや製パンメーカー等には、高品質なラミネートフィルム製品を販売されています。その他、同社は商社としての強みを活かし、日本からの高品質な製品に加えて、中国等からの調達品も同時に販売する等、顧客のニーズに合わせた幅広い製品を取り扱われています。近年、香港では日本食の浸透が著しいことから、主力製品の包装資材等だけでなく、寿司ロボットの様な機械装置や調理用器具等、飲食店向けのアイテムをワンストップで提供することにより、日本食文化の拡大に貢献されています。

4 最後に

同社は、ビジネスの大半が香港企業との間で行われている他、現地で採用した香港人25名と日本人1名で運営する等、香港社会に深く根付いた事業を展開されています。今後は中国本土でのサービス体制の構築も視野に入れておられることから、食品関連や医療等の分野で香港をはじめとした中国地域でのビジネスを検討している企業にとって、同社は有力なビジネスパートナーになり得る存在であると思われます。同地域でのビジネスを検討されている皆様は、ぜひ同社にコンタクトを取られてみてはいかがでしょうか。

（香港駐在員事務所　菅　大輔）

▲同社取扱商品「直進くん」

▲後列右端:Ran Chang総経理、後列右から2番目:下村常務董事

PROFILE

現地法人名：香港包装器材中心有限公司
住　　所：Unit 02-03, 21/F, CITIC Telecom Tower, 93 Kwai Fuk Road, Kwai Chung, N.T., Hong Kong
T E L：+852-2610-2277
親 会 社：丸東産業株式会社
住　　所：福岡県小郡市干潟892番地1
T E L：0942-73-3845
F A X：0942-73-3848

海外進出最前線

海外進出されている福岡銀行大阪支店のお取引先企業グループのご紹介

ニューヨーク編

三光株式会社 ～SANKO USA Inc.～

1 はじめに

三光株式会社様は、福岡県久留米市に本社を、大阪市中央区に本部を構え、「化学品製造事業（自社製品の研究・製造・販売）」と「化学品専門商社事業（自社製品以外の幅広い化学品を販売）」という2つの事業を手掛けておられる企業です。本社・本部に加えて国内4支店、3工場、1研究所、1営業所、その他4つの関連会社と海外に4拠点（ドイツ・タイ・米国・中国）を構える等、ビジネスチャンスを求めて世界中にネットワークを広げておられ、そのうち米国法人SANKO USA Inc.（以下、同社）は、2004年7月に設立されました。

2 進出から現在まで

同社は三光株式会社様の米国における営業拠点として、主に自社製品の営業、販売を手掛けておられる他、米国・アジア製品の輸出・輸入販売という商社業も営んでおられます。

そして、同社は商社業も営むという自社の特徴を活かして、顧客の要望に応じて自社製品以外の製品も販売する等、幅広い顧客ニーズに応えられる体制を構築し、主に感熱紙をはじめとした情報用紙関連の原料や、コーティング剤に加える黄変防止剤を販売されています。販売先は現地の日系企業だけではなく米国企業、そして南米のブラジルにも広がっており、現在も販売先の更なる増加を目指して努力を続けておられます。

現在の米国市場は、「円高」と「環境規制の違い」という二点で、同社にとって困難な状況にあります。足元では若干円安傾向に転換したものの、依然として円高水準が続く中、同社製品は中国、台湾等のアジア諸国から流入する低価格品との厳しい競争に直面していることに加え、米国は日本ほど環境規制が厳しくないため、多くの米国企業は環境性能よりも価格を重視して調達する傾向が強いことも逆風となっています。環境マネジメントシステムの国際的な規格であるISO14001の認証を取得する等、積極的に環境問題に取り組む三光株式会社様ですが、価格重視に偏りがちな米国市場での販売拡大には並々ならぬ苦労があるようです。

3 今後の展開

同社では、今後取扱製品の拡充を図るために商社機能の強化を検討されています。これまでの営業活動を通して把握した「顧客が求める商品」のラインナップを拡充することで、より一層顧客ニーズに対応した営業に注力される予定です。

また、環境意識が年々高まる中、世界的な潮流は規制強化方向に傾いています。将来、米国でも環境規制が強化される可能性を考えると、環境性能が低くても低価格品が売れる現状が変化し、高付加価値を備えた同社製品に注目が集まることが期待できます。同社では、これまでの地道な営業努力はいつか必ず実を結ぶとお考えです。

4 最後に

これまでの様々な活動や苦労話をお聞きしながら、困難な状況の中で何とか突破口を見出そうと現地スタッフと一体となって業務に取り組まれている同社の熱意を感じました。厳しい環境ですが、前向きなチャレンジが今後のビジネスチャンスに繋がるものと期待しています。

（ニューヨーク駐在員事務所　久保田　雅人）

▲左から福村副社長、Ms. Cheryl Richardson、福本社長

PROFILE

現地法人名：SANKO USA Inc.
住　　所：1111 Plaza Drive, Suite 320, Schaumburg, IL 60173
T E L：+1-847-330-1902
F A X：+1-847-330-1904
親 会 社：三光株式会社
住　　所：福岡県久留米市通町8番地の16
T E L：0942-33-8411
F A X：0942-33-8415

海外リポート
Overseas Report

バンコクから
「九州食の商談会inバンコク」開催報告

商談の様子

福岡銀行及びふくおかフィナンシャルグループでは、2013年1月30日、31日の2日間、タイをはじめとしたASEAN諸国での食品関連のビジネス拡大支援を目的に、「九州食の商談会inバンコク（共催：福岡県バンコク事務所）」を開催しました。

本誌上では、タイにおける日本食ビジネスの状況を紹介した上で、商談会の模様についてご報告します。

タイの日本食ビジネス

タイはこれまで日本をはじめとする海外からの直接投資をテコにして工業化を進め、経済発展を遂げてきました。洪水の影響により昨年は一時的に停滞したものの、近年も堅調な経済成長は続いており、その成長にあわせてタイ国民の所得の向上も進んでいます。また、タイでは日本食ビュッフェレストランのヒットをきっかけに、2000年以降「日本食ブーム」が起こり、バンコクを中心に日本食レストランが急増。現在タイ国内には1,700軒を超える日本食レストランが存在していると言われています。

これまでタイでの日本食ビジネスは、主に現地に滞在している日本人を対象に展開されていましたが、前述のようなタイでの「所得の向上」及び「日本食人気の高さ」を背景に、近年はタイ人富裕層に加え中間層にも日本食が浸透しつつあります。

商談の様子

日本食ビジネス拡大への期待の高まりを受け、今回福岡銀行では新たな取り組みとして、食品に特化した商談会をバンコクで開催しました。

本商談会にはふくおかフィナンシャルグループ3行のお取引先をはじめとした九州の食品関連企業31社が現地に集結。和牛や麺類、ドレッシング等、自社で取り扱っている自慢の商品を手に商談へと望みました。

当日はバイヤー（レストランやスーパー等の買い手側）として、タイ国内企業を中心に計114社が来場し、活気溢れる商談が行われました。商談会場では現地での日本食に対する関心の高さを裏付けるように、バイヤー側の積極的な姿勢が多く見られ、特に日本の「和牛」に対して強い関心が寄せられていました。開催2日間での商談件数は延べ489件（参加企業1社あたりの平均商談件数16件）にも上り、そのうち「商談成約見込み」は119件と、全体の4分の1近くがこれからのビジネスに繋がる見込みとなる等、今後の動きに期待が寄せられます。

参加企業からは、「今までタイに当社の商品を出したいと思っていても、方法がよく分からなかった。良いきっかけをもらえた」、「数多くのバイヤーと商談することが出来て実のある商談だった」等の評価を頂き、参加企業アンケートでも満足度は平均8・6点（10点満点）と高い評価結果となりました。

勢ぞろいする九州の食材

今回の商談会を通じて、日本食材はタイにおいて、旺盛な需要があることが改めて確認出来ました。今後は食品関連分野でも、日系企業のビジネス拡大が期待されます。

バンコク駐在員事務所では、タイをはじめ、カンボジア・ベトナム・ミャンマー・ラオスのインドシナ地域5カ国を担当エリアとしており、お取引先企業様の販路拡大に関する様々な情報提供に努めて参ります。上記の地域への海外進出をご検討されているお客様は、お近くのふくおかフィナンシャルグループ各行（福岡銀行・熊本ファミリー銀行・親和銀行）まで是非お気軽にご相談下さい。

（バンコク駐在員事務所　貞方　泰徳）

酒類

和牛

麺類

海外リポート
Overseas Report

大連から

中国東北地方・遼寧省最大の都市「瀋陽」

高速鉄道開通による新時代の到来

1 はじめに

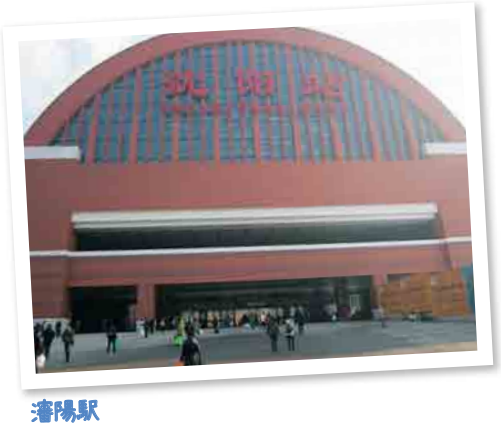
2012年12月、中国東北地方の新たな大動脈となる高速鉄道「哈大（はだい）高速鉄道」が開通しました。遼寧省大連から省都瀋陽や吉林省長春を経由して、黒龍江省ハルビン（哈爾兵）までを専用路線で結びます（詳細は本誌本号34頁掲載の「海外トピックス」をご参照下さい）。これにより東北地方のネックと言われていた交通アクセス網が改善され、人やモノの往来が活発になり、今後の経済の活性化に繋がるものと思われます。

2 高速鉄道開通により高まる瀋陽への注目度

今般の高速鉄道開通は、遼寧省の二大都市である瀋陽・大連間（約400㎞）のビジネスに大きなインパクトを与えることが予想されています。

従来、同区間は特急列車で4時間強かかっていましたが、高速鉄道では夏季1時間半（冬季は2時間強）と、日帰り出張が十分可能となる移動時間に短縮されました。また、これまで大連駐在日本人ビジネスマンの瀋陽出張は社用車を利用するケースが多く、時間帯によっては高速インターチェンジから市内まで一般道でかなりの時間を要し、更に冬の高速道路は凍結するためスリップ事故の危険と隣り合わせでもあったことから、実際の距離以上に瀋陽を遠く感じている方が多くいました。今般の高速鉄道の開通により、その心理的な距離感もずいぶんと近く感じられる様になりました。

これまで日本企業の対中投資は、外資の誘致に積極的で、且つ、良好な港があり、加工貿易の拠点等として活用しやすいことを背景に、同じ遼寧省にある大連に集中していました。しかし、今般の高速鉄道の開通をきっかけに、瀋陽での更なるビジネス拡大への期待が高まっています。その理由は、瀋陽が①中央政府による東北地方振興策の中核都市であること、②首都北京と東北地方をつなぐハブ都市であること等が挙げられます。


瀋陽駅

3 瀋陽の概要

瀋陽は、戸籍人口が723万人、面積は福岡県（4,977平方キロメートル）の2・6倍の広さとなる12,980平方キロメートルにも及

ぶ、中国東北地方の主要都市の一つです。函館市とほぼ同じ緯度に位置するため、冬は最低気温が零下30度に達することもあります。また、かつて清の初代皇帝ヌルハチが後金（後の清）を建国した時に国都に定めたという歴史があり、古都の面影を残す建造物として有名な瀋陽故宮をはじめ、歴史を物語る数多くの名所旧跡が存在しています。

九州及び日本との関係では、2011年に佐賀県が地元企業の中国市場開拓の支援等を行う拠点として事務所を開設している他、中国東北地方を管轄する日本総領事館が置かれており、また、札幌市（1980年）及び川崎市（1981年）が友好都市関係を締結している等、日本との交流関係も深まっています。

瀋陽周辺は、原油・鉄鉱石・石炭等の天然資源に恵まれた地域でもあることから、中国の大手製鉄メーカーである「鞍山（あんざん）鋼鉄集団」等の素材メーカーが集積し、機械工業や製造業を中心とした国内有数の重工業都市として発展してきました。しかし、改革開放後の加工貿易全盛時の1990年代まで、瀋陽は非効率な国有企業主体の産業構造であったために、市場経済化に適応できなかったこと等から、経済は停滞していました。

停滞からの脱却の転機となったのは、2003年に中央政府が重要な国家戦略と位置付けた「東北振興策」、及び2007年に同政策の具体的実施計画である「東北地区振興計画」です。この施策を通して、国有企業の再編や民営化、不振企業の廃止等といった市場経済化への対応が実施され、今や世界有数の工作機械メーカーに成長した「瀋陽機床集団」を筆頭に、瀋陽における複数の有力メーカーの誕生、更には関連する地場産業の成長にも繋がりました。また同施策には、瀋陽を中心とした高速鉄道・高速道路・地下鉄といった交通インフラの整備等も盛り込まれており、大型の開発投資が行われました。

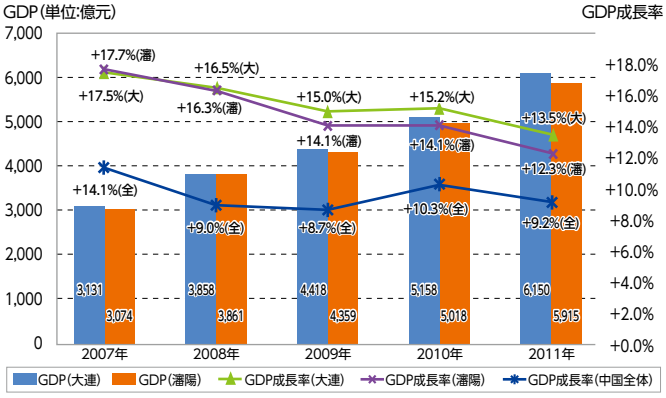
また、この施策が実施されていた時期が、中国が経済成長と所得水準

■ 主要指数比較

		面積(㎢)	人口(万人)	GDP(億元)			一人当たりGDP(元)		(出所)	
				(十億円)	(前年比)			(千円)		年次
東北3省	瀋陽市(遼寧省)	12,980	723	5,915	8,234	12.3%	72,637	1,011	在瀋陽日本国総領事館	2011
	大連市(遼寧省)	12,574	589	6,150	8,561	13.5%	91,287	1,278		2011
	長春市(吉林省)	20,571	762	4,003	5,572	13.3%	52,649	733		2011
	ハルビン市(黒龍江省)	53,068	993	4,243	5,906	12.3%	42,700	594		2011
他都市	上海市	6,340	2,347	19,196	26,721	11.8%	82,560	1,149	上海市統計年鑑	2011
	北京市	16,410	2,019	16,252	22,623	15.2%	81,658	1,137	北京市統計年鑑	2011

円元為替レートは2012年12月31日現在（1元=13.92円）のものを使用

■ GDPの推移と成長率



出所：各統計局資料より福岡銀行大連駐在員事務所にて作成

■ 貿易金額の推移と比較

年次	大連市(A)			瀋陽市(B)			比較(A/B)		
	計(億ドル)	輸出	輸入	計(億ドル)	輸出	輸入	計(億ドル)	輸出	輸入
2008年	449.1	238.4	210.7	71.3	41.2	30.1	6.3 倍	5.8 倍	7.0 倍
2009年	403.5	208.2	195.3	65.7	35.2	30.5	6.1 倍	5.9 倍	6.4 倍
2010年	521.1	273.9	247.2	78.6	40.8	37.8	6.6 倍	6.7 倍	6.5 倍
2011年	600.1	311.9	288.2	106.3	48.3	58.0	5.6 倍	6.5 倍	5.0 倍

出所：ジェトロ資料より（元出：大連市対外貿易合作局、瀋陽統計年鑑）

■ 日本との貿易推移額

年次	大連市(A)			瀋陽市(B)			比較(A/B)		
	計(億ドル)	対日輸出	対日輸入	計(億ドル)	対日輸出	対日輸入	計	対日輸出	対日輸入
2008年	115.2	72.8	42.4	8.0	4.6	3.4	14.4倍	15.8倍	12.5倍
2009年	104.3	63.2	41.1	6.5	3.6	2.9	16.0倍	17.6倍	14.2倍
2010年	132.4	80.4	52.0	7.4	3.8	3.6	17.9倍	21.2倍	14.4倍

出所：ジェトロ資料より（元出：大連市対外貿易合作局、瀋陽統計年鑑）

の向上により消費市場としての魅力を高めつつあった時期と重なったこともあり、北京・天津等の巨大市場と東北地方を結ぶハブ機能や、製造業の生産拠点等として発展する条件を備えていた瀋陽の経済は再び活性化。足元では環境に配慮した次世代型建築産業の振興を図る国家プロジェクトである「国家現代建築産業化モデル都市」に中国で初めて指定される等、新たな産業の育成が図られています。

瀋陽では現在も都市機能の向上に向けた様々な計画が予定されています。2014年末には北京との高速鉄道が開通（所要時間が現在の4時間強から2時間半に短縮）し、交通の要衝として更に利便性が向上する見込みである他、瀋陽南西部に位置し、高い港湾能力を有する営口（えいこう）港と瀋陽を結ぶ直通道路「通海大道（120km：所要時間は1・5時間）」が建設中である等、これまでネックとなっていた港とのアクセスも改善される予定です。

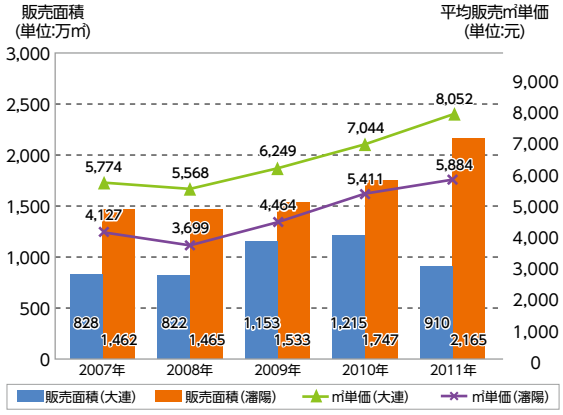
瀋陽市内のヤマダ電機

4 日系小売業が進出する瀋陽の繁華街

瀋陽の特徴としては、富裕層が多いこと、そして面子を重視し高額消費を好む傾向があることが挙げられます。前述の通り、元々国有企業の集積地であった瀋陽には、国有企業の民営化が進む過程で企業から慰労金のほか住宅や不動産の安価での払い下げを受けた元社員等が数多く在住しており、最近の活発な不動産開発や不動産市況の上昇が、そうした層の資産増加（＝富裕層の拡大）に繋がっているようです。また、国内のぜいたく品支出ランキングでも上海、北京、杭州に次ぐ第4位にランクインしています（華商晨報（かしょうのうほう）／2011年12月1日付）。

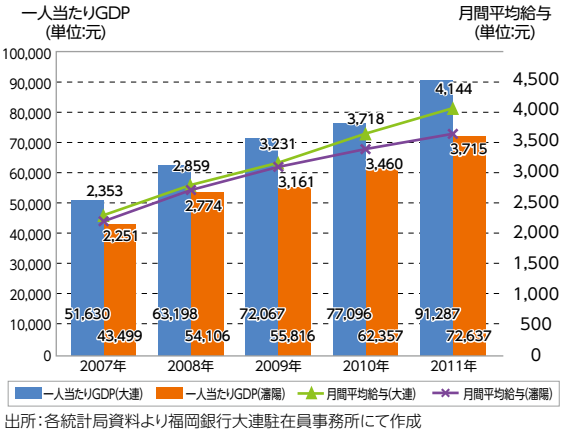
このような消費の受け皿として、瀋陽には主な繁華街が2か所あり、大きな役割を担っています。瀋陽駅前の「太原街（たいげんがい）」と瀋陽故宮に隣接する「中街（ちゅうがい）」は、どちらも大変な賑わいを見せています。太原街には欧米系の高級ブランドや高級百貨店が集積する一方、中街には全長1，500メートルの歩行者天国を中心に特に若者を意識したブランドが多く、ユニクロをはじめ、雑貨小売の無印良品や眼鏡販売のJINS等の日系の小売業が出店しており、2010年にはヤマダ電機が中国進出第1号店を開設しています。これまで、太原街と中街はそれぞれターゲットとする顧客の棲み分けがなされていたようですが、最近では従来の棲み分けに捉われることなく、中街にも上海の高級百貨店や香港の著名なショッピングセンターが新規進出（建設中も含む）する等、両繁華街の集積は大連を大きく上回る商圏となっています。更に、瀋陽には市内を東西に走る地下鉄1号線と南北に走る2号線が開通しており、太原街と中街は12分程度（4駅）で移動出来る等交通利便性が高く、更なる集客力の向上が期待されています。

■ 住宅販売面積と㎡単価の推移



出所：各統計局資料より福岡銀行大連駐在員事務所にて作成

■ 月間平均給与と一人当たりGDPの推移



出所：各統計局資料より福岡銀行大連駐在員事務所にて作成

5 拡大する瀋陽の不動産市場

近年、所得水準の向上や前述の国有企業の不動産払い下げ効果等により、市民の住宅購買力が上昇していることを背景に、瀋陽の不動産販売（面積）は順調に増加しています。大連での不動産販売（面積）が同時期に減少していることと比べると、瀋陽の堅調な拡大が目立ちます。

周辺都市からの人口流入を吸収するために郊外や農村部でもニュータウン建設が計画される等、瀋陽は現在も「実需中心の市場の拡大」が続いていると見られており、住宅用不動産市場は更なる拡大が見込まれています。また瀋陽は、遼寧省で2013年夏に開催される「全国運動会（日本の国体に相当）」の中心都市として、競技関連施設や選手村の建設も活発に行われています。

こうした事情を背景に、瀋陽には、日本から積水ハウスや東急不動産、三菱地所等の大手デベロッパーが進出しており、積極的な不動産開発が実施されています。

積水ハウスは2012年4月に鉄骨住宅用生産工場を竣工・稼働しており、中国各都市へ省エネ性能に優れた住宅を供給する予定です。既に瀋陽市内中心部ではホテルやマンションの複合施設を建設中であり、郊外の住宅地では戸建住宅や分譲マンションの複合開発に着手しています。更に、現地でのプロジェクトに関連する企業数社も同時に進出しています。

また、三菱地所では2012年10月に「瀋陽パークアウトレット」を開業し（敷地面積130,000㎡の本格的なアウトレット商業施設）、「厳寒期にも快適なショッピングが可能な室内型モール」（市内中心部から北へ25㎞の重点開発エリア「瀋北新区」）を展開しました。

6 最後に

瀋陽は、中央政府の「東北振興策」の下、国有企業の改革や地場産業の育成、市内インフラ開発投資等による経済発展を実現しました。これに対し大連は、改革開放政策に基づく対外開放の先駆的な都市として外資誘致と技術導入を進め、特に日本企業の投資誘致と対日貿易の拡大が原動力となって、瀋陽とは対照的な経済発展を遂げました。

2010年4月、中央政府は瀋陽を中核とする半径200㎞圏内の8都市（瀋陽、鞍山（あんざん）、撫順（ぶじゅん）、本渓（ほんけい）、営口、遼陽、鉄嶺（てつれい）、阜新（ふしん））を高速道路や鉄道の整備により相互に連結させ、人口2,359万人の一大経済圏を構成する「瀋陽経済区」の建設を承認しました。また、大連においても、北東アジアの国際海運センターとすること等を目標とした「遼寧沿海経済帯発展計画」が承認されており、今後はそれぞれの強みを活かす方向での経済発展を促す計画です。

今回の高速鉄道開通は、大連駐在の日本人ビジネスマンに、瀋陽を改めて魅力的な市場として認識させる契機となりました。これまで心理的な距離感があった瀋陽を身近に感じさせる効果は、日系企業にとっても新たなビジネスチャンスをもたらすきっかけになり得ると思われます。

当事務所では、今後も現地に進出している企業とのネットワークを充実させ、情報提供や進出をサポートしてまいります。最寄りの営業店を通じていつでもご相談ください。

（大連駐在員事務所　小田　周平）

建設中の積水ハウス開発物件（ホテルやマンションからなる複合施設）

■ 東北3省の在留邦人・進出日系企業

	在留邦人		日系企業	
遼寧省	90.5%	7,173人	94.0%	1,439社
大連市	77.9%	6,175人	81.3%	1,244社
瀋陽市	9.7%	772人	10.1%	155社
吉林省	6.2%	494人	4.5%	69社
長春市	4.4%	348人	3.4%	52社
黒龍江省	3.3%	263人	1.5%	23社
ハルビン市	2.5%	201人	1.2%	18社
東北3省合計	100.0%	7,930人	100.0%	1,531社

出所：在瀋陽日本国領事館（2011.10時点）

大連−ハルビン間を結ぶ高速鉄道「哈大高速鉄道」

現地駐在員がさらに詳しくご紹介します

1 はじめに

海外リポート（大連から）でお伝えしました通り、2012年12月1日に東北3省（遼寧省・吉林省・黒龍江省）を結ぶ高速鉄道「哈大（はだい）高速鉄道」の運行が開始されました。本稿では、東北3省における交通の大動脈として期待され、中国版新幹線とも言える高速鉄道「哈大高速鉄道」にスポットをあて、さらに詳しくご紹介致します。

2 哈大高速鉄道について

今回開通した高速鉄道「哈大高速鉄道」の名称は哈・爾浜（ハルビン）と大・連の頭文字に由来します。中国東北3省の最南省である遼寧省「大連」から省都（中国の行政区としての省の首都がある都市）「瀋陽」、吉林省の省都「長春」を経由して最北省の黒龍江省の省都「ハルビン」を全長921km（福岡−東京間とほぼ同じ距離）の専用路線で結んでいます。

列車の平均速度は時速300km（冬季の12月~3月は時速200km）とされ、これまで在来線で大連−ハルビン間が約9時間、大連−瀋陽間が約4時間かかっていたのが、ハルビンまで3時間（冬季5時間余り）、瀋陽まで1・5時間（冬季2・5時間）で結ばれることとなり、大幅な時間短縮が可能となりました（図1）。

この高速鉄道は日本企業等の技術を基に中国が独自開発したものとされ、車両は8両で編成、座席は「特等、一等、二等」の3種類あります。特等は車両の前後2両で各8席ずつしかない、まさに「特等席」です。一等は2人掛け専用、二等は2人掛けと3人掛けの2タイプとなっており、車両内には食堂車もあります。私も瀋陽まで二等席で出張に行きましたが、トンネルに入る時や車両のすれ違いの際の風圧による横揺れも少なく、日本の新幹線と比べて何ら遜色のない、非常に快適な車内でした。

3 チケットについて

高速鉄道の乗車料金は、始発の「大連北駅（大連駅から車で20分程度の場所にある高速鉄道専用駅）」から終点の「ハルビン西駅」までが二等で285元（日本円換算：約3,990円）である等、同区間の航空運賃（1,020元）や高速バス運賃（350元）を意識した競争力のある価格に設定されています（図2、3参照）。

チケット購入方法は中国人であれば、窓口や券売機で中国人専用の身分証明書を用いて、購入出来ます。外国人の場合は、パスポートの提示が必要で、窓口での取り扱いに限定され、さらに、チケットにはパスポート番号も記載されます。また、駅に入る際、空港のような手荷物検査が利用客全員に義務付けられ、かつ改札を通る際も中国人は身分証明書、外国人はパスポートの提示が必要となることも日本と異なる点です。

大連発の所要時間（図1）

行き先	従来	夏季	冬季(12月~3月)
瀋陽北	4.0時間	1.5時間	2.5時間
ハルビン西	9.5時間	3.0時間	5.5時間

出所：時刻表より調査

大連北駅発の料金表（図2）

行き先	特等		一等		二等	
瀋陽北	213元	(2,982円)	190元	(2,660円)	119元	(1,666円)
長春	386元	(5,404円)	343元	(4,802円)	215元	(3,010円)
ハルビン西	513元	(7,182円)	456元	(6,384円)	285元	(3,990円)

出所：時刻表より調査 ※カッコ内の円換算額は、1元≒14円で計算

乗車料金の比較（片道料金、大連−ハルビン間）（図3）

種類	高速鉄道			飛行機		高速バス	
	料金		時間	料金	時間	料金	時間
料金・時間	特等	513元	3.0時間（冬5.5時間）	1,020元	1.5時間	350元	12時間
	一等	456元					
	二等	285元					
出所	時刻表より			航空会社ヒアリング		バス会社ヒアリング	

4 最後に

現在中国国内では、各地で高速鉄道の建設など交通インフラの整備が急ピッチで進められています。今回の「大連→瀋陽→長春→ハルビン」という4つの副省級市（大幅な自主権が与えられている地方自治体の一種で、北京・上海等の直轄市に次ぐ重要な都市という位置づけ）を結ぶ高速鉄道は、単に交通の利便性を向上させるだけでなく、「ヒト・モノ」の往来をより容易にすることで、東北3省が1つの巨大な経済圏となって企業活動・観光・文化交流等の様々な方面で発展していくことに寄与するものと期待されます。

（大連駐在員事務所　トレーニー　田中　慎也）

▲高速鉄道「和諧（わかい）号」

▲「瀋陽駅」内の様子